

らしっく

自分らしく、粋なぐらし

2004.4
萌黄号
Vol.7



らしっくは、自分らしく、
粋なぐらしを目指す人たちを
応援する情報誌です。

広島市まちづくり市民交流プラザ情報誌

ドドジっくへん

「つなぐ」

沙羅の森
ひろしまおもちゃ病院

らしっくサロン

NPO法人化とこれから

〜住みやすい広島のみちづくりを目指して

達人図鑑

バイオリン 上野真樹さん

津軽三味線 下原秀次郎さん



2 ビビッとしっくに

沙羅の森
ひろしまおもちゃ病院

9 ひろしまの会社の おもしろPスポット

春真っ盛り! 工場見学へ行こう

10 おもしろPレポート

フォード・ジャパン・リミテッド

12 よりみちデポ

亀山公民館

14 らしっくサロン

NPO法人化とこれから
～住みやすい広島のまちづくりを目指して

18 達人図鑑

バイオリン演奏のレクチャーコンサート
上野真樹さん
津軽三味線の演奏・指導
下原秀次郎さん

20 Hキャンパス

エル・ネット「ボランティアスタッフ」

22 らしっくCafé

エコロジーライフを考える

23 らしっく情報の森

26 プラザ通信

30 てくてく特派員と行く

街道散歩

安芸区矢野町
町並み見学会



表紙タイトル「朝霞に萌」
監修／NPOセトラひろしま 橋本真知子さん
撮影／田中三輝夫 モデル／プラザ某職員

また、「人工の光で、せつかくの自然の星光が隠れてしまうのは残念」と、近年の光害を嘆きます。明る過ぎる光は天体観測だけでなく、動植物にも影響を及ぼしてしまうそうです。誰もが見たことのある星空を守るために、私たちの周りの光について一度考えてみるのもいいかもしれません。

「4月から5月にかけては、リニア彗星とニート彗星が肉眼でも見えるかもしれません」と石原さん。あなたもたまには立ち止まって、夜空を見上げてみませんか？

「主催する天文教室で、天文マニアが育ってくれたら」と石原さんは考えています。

また、「人工の光で、せつかくの自然の星光が隠れてしまうのは残念」と、近年の光害を嘆きます。明る過ぎる光は天体観測だけでなく、動植物にも影響を及ぼしてしまうそうです。誰もが見たことのある星空を守るために、私たちの周りの光について一度考えてみるのもいいかもしれません。

安芸区船越にお住まいの、広島天文協会会員の石原隆宏さんは、自然が大好きな少年でした。小学生の時、天体望遠鏡を買ってもらったのがきっかけで、天体観測を趣味に持つようになったそうです。

高校生のある日、天文部顧問に誘われて「広島天文協会」へ入会。8歳～60歳の会員が集まる同会の月例会で、写真や情報を持ち寄り星を見たりしながら、天体に関する造詣を深めていきました。

やがて、天体観測は石原さんにとってなくてはならないものに。そして、平成9年(1997年)に自宅を建て替える際、ついに念願の天文台を併設したのです。

石原さんが撮影した天体写真



広島天文協会
☎090-7776-9477 (石原隆宏さん)



平成8年(1996年)3月25日、百武彗星を撮影(野呂山にて)



今年1月28日に撮影した土星
公民館で季節ごとに四季折々の天体を説明すること

暮らし

Vol.4

自分らしく豊かに、でもちょっとびりこだわって……。ついでにまわりのみんなも巻き込んでゆつくりたっぷり楽しんじゃおう！

暮らしっくでは、そんなふうには広島でスローライフを楽しんでいる人を、紹介します。

今回は、趣味である天体観測が高じて、自宅に天文台をつくってしまったというこだわりの人、石原隆宏さんです。

沙羅の森のハーブ園。
春になると彩り鮮やかな
心地よい空間になります



車いす用のトイレも完備



より多くの人が集える 拠点づくりへ

第二ボデーは、特殊車両の架装やス
ーケースの補修を手掛ける会社です
が、「朋・広島」の活動にかかわるう
ちに、長尾社長は「障害のある方々も
どんどん街へ連れ出してあげたい」と

めました。そのメンバーの中に、第二ボデ
ーの長尾社長を知る盛植泰照・真奈
美夫妻がいました。盛植夫妻の紹介
で運命的に山本さんと出会った長尾
社長は、山本さんの熱意に共感し、先
代社長が購入していた芸北町王泊茶
屋別館の建物を提供することに。そ
して翌年4月、誰もが集まれるサロン
「朋in芸北」が誕生しました。



「朋in芸北」のエントランス

朋in芸北

山県郡芸北町細見
TEL08263-5-0430
営業期間:4月最終土曜日～紅葉が
終わるまで(11月くらい)の土日祝
営業時間:午前10時～午後4時



朋in芸北の室内。障害者や高齢者など、
誰もがくつろげるソファがあります



山本さんが大好きな「朋in芸北」近辺の景色

ピピッとアンテナを張り巡らせている人は、
いつもvividに(イキイキと)生きています。
そんな方々のchic(粋)な活動
をご紹介するこのコーナー。
さあ、あなたもピピッと、しっくに
暮らしてみませんか？



「今と未来をつなぐ」

広島にはたくさんの温かい人がいま
す。一人ひとりがちょっとだけほかの
人のことを、そして未来のことを考え
ていけば、広島はもっともっと温かい
まちになれるはず。……今回はほん
の少し前に行く、広島のハートフル
な人々をご紹介します。

場所が人をつなぐ

沙羅の森(佐伯区)

誰もが集える、
民間サロン「沙羅の森」

佐伯区上小深川に、障害者や高齢
者にも優しいふれあいサロン、「沙羅の
森」があります。

ロクハス風の外観をもつ沙羅の森
は、平成10年(1998年)8月、福祉
ボランティアグループ「朋・広島」が、
地元の第ボデー株式会社所有の建
物を借り受けて、スタートしました。
管理にお金がかかるため運営を継続
することは容易ではありませんが、社
長の長尾泰充さんのご好意により無
償で借りることができました。

さらに運営スタッフは、全員が「朋
・広島」のボランティアメンバー。こ
こでは、喫茶やランチが楽しめるほか、手
づくりの置物やレターカードといった
小物販売を行うなど、運営資金づく
りにも努力しています。また、定期的
に無料のコンサートなどを開催し、多
くの人が楽しめる憩いの場づくりに
取り組んでいます。そのため6年目に
なる現在も、定着した活動が営まれ
ています。

強い思いから生まれた出会い

「沙羅の森」は、横浜市で重複障害者
通所施設「朋」を運営する理事長・日
浦美智江さんを姉に持つ山本美英江
さんが、横浜の朋の「人は人の中に生
きて、その存在は輝く」という理念を
実現できる場を広島につくりたいと強
く思っていたことから、実現しました。

最初は平成8年(1996年)9月、
山本さんは同じ思いを持つ人たちと「朋・
広島」を発足させ、「自然豊かな山の中
に誰もが訪れることができる拠点
をつくって、大好きな花や鳥を多くの
人と一緒に見たい」と、場所探しを始



手づくりの小物販売が沙羅の森の運営を支えます



入口までは勾配の
緩やかな木製スロープに
なっています

コンサート後はみんなでお茶を味わい、会話を乐しみます



自分の仕事が多くの方々の役に立つというのは、この上なく幸せです。



第一ボデー株式会社
代表取締役
長尾泰充さん



第一ボデーの福祉車両。障害者・高齢者の外出支援に役立つことも

思うようになりました。そこで、車いすでも乗りやすい福祉車両の改造にも、本業で取り組むようになりました。さらに、「冬場でもより多くの人が利用できる場所を」と、佐伯区の本社工場の隣にあった元アウトドアグッズ専門店の建物を提供。こうして「沙羅の森」が生まれました。

「出会いの場」がある 素晴らしさ

月に1回開催する「沙羅の森コンサート」には、いつもテーブルにきれいな花々が飾られています。これらは、毎回地域の方が持つてきてくれるそうです。ほかにも、会の活動費につながるよう、手づくりのお米や野菜、手芸品などを持ち寄る人もいます。演奏会によく参加する知的障害ガイドヘルパーの中川恵子さんは、「この場所のように誰もが自由に参画し、楽しめる場所はほかにはない」と言います。

また平成11年(1999年)6月に起きた豪雨災害では、沙羅の森は災害避難所のように、人々が集う場として活躍しました。そんな沙羅の森は、「目に見えない不思議な応援に助けられている」と、メンバーは口ぐちに語ります。

民間ゆえの苦勞

多くの人の力が集い、癒しの場となっている「沙羅の森」ですが、自発的なボランティア活動であるが故に、苦勞も多くあります。公的機関からの金銭的援助もなく、運営費は自分たちで賄わなくてはなりません。少人数のボランティアスタッフで運営していくためには、一人ひとりが責任をもつて動く必要があります。そのため重要なのが、日ごろからの人間関係。こういった活動を続けられた理由の根底にあるのは、「感謝」だと山本さんは言います。自分のことだけを考えるのではなく、人のことも考える、そんな当たり前のことを「沙羅の森」でいつの間にか学んでいったそうです。まずは、温かい人とのつながりを実感しに「沙羅の森」へ訪れてみませんか？

ボクも
行ってみよう！



ここへ来るといつも元気をもらいます。沙羅の森に集う人は温かいです。

2月の演奏会でバイオリンを披露した小林義雄さん(左奥)とその先生・小林智子さん(右奥)

弾き手と聴き手が隣り合わせのコンサートは初めてだったので、少し不安に思いましたが、直に反応が伝わってきて親近感がわきました。

「朋・広島」事務局代表を務める
山本 芙美江さん



人はみな個性があるからこそ楽しい

私は活動の中で、どんなに重い障害のある人たちも、人々の真ん中で大きな「働き」ができることを知りました。人が人を変えることはできないけれど、出会いがあれば人は変わらうと感じます。場所があればこそ、出会いが生まれ、知り合い、受け入れることもできます。そこから本当の意味でのノーマライゼーション(共生)が生まれ、社会がよい方向に循環し、誰もが積極的に生きることができるようは……。

この「沙羅の森」が一つのモデルケースとなり、地域に広がっています。



この演奏会をいつも楽しみにしています。家の近くに生の音楽が聴ける場所があるのは、うれしいですね。



近所に住む中西昇さん

コンサートの最後にみんなで歌いました

information

さら 沙羅の森

佐伯区五日市町上小深川1081-3

TEL082-928-2112

営業時間:午前10時～午後4時

定休日:毎週月曜日

「沙羅の森コンサート」毎月第1日曜日午後2時～

「沙羅の森の小さな合唱団」毎月第4土曜日午後4時半～

施設内容:駐車場(無料、20台程度)、障害者用トイレ、休憩室あり

アクセス:JR山陽本線または広島電鉄「五日市」駅下車、

湯来町杉並台方面行きバス約25分、「古の橋」バス停下車

